

# 令和4年度 第3回東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会 ＜議事要旨＞

## 1 会議概要

- (1) 開催日時 令和4年11月28日（月曜日）10時00分から11時40分まで
- (2) 開催方法 オンライン開催

## 2 議事内容

下記のフォローアップ研修に係る検討事項について、事務局より資料に基づいて説明し、意見交換を実施

- (1) (資料4)「ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法」の演習について

### 【主な意見】

#### 《演習目的の確認》

- ・事例検討は、あくまでも支援方針を決定する場ではなく、利用者への理解を深め、支援のアイデアを出すための場である。
- ・当事者視点を活かしたピアサポーターの立場と、専門職の立場の、二つの視点から利用者への理解を深めていく中で、専門職だけでは気づくことのできなかつたアイデアが生まれたり、ピアサポーターが自身の役割を意識しさらに視点を磨くことができたりといった相乗効果が生まれる。

#### 《演習手法について》

- ・利用者本人不在の事例検討の場においては、本人から了承を得ていない、あるいは支援とは無関係な個人的な情報が、支援者間で共有されてしまう懸念がある。
- ・本人不在での事例検討は実際に多々行われており、行うこと自体が良い・悪いということではないが、研修後に各現場へ事例検討の実践が広がっていくことを考えると、どういう形式での事例検討が推奨されるべきか方向性を整理する必要がある。
- ・限られた時間での対応になるが、個人情報保護や倫理観の面で想定される懸念について、受講者にお示しできたらいい。
- ・本人不在だからこそ、支援者、特に専門職が本音を言いやすいこともある。その本音に対してピアサポーターが肯定的なフィードバックを返すなどすることで、支援の質が向上していく、この体験をすることが、この演習手法の醍醐味だと思う。

#### 《その他》

- ・研修の場で、経験の浅い方でも、ピアサポーターの視点を活かした意見を出しやすいように、ファシリテーターが呼び水となるような投げかけができるといい。